

③6 金沢城公園 第二期整備事業

受賞機関 石川県 土木部 公園緑地課、
営繕課

全建賞審査委員会の評価ポイント

北陸新幹線金沢開業を見据え、史実に沿った金沢城の復元整備事業。県民参加による城づくりは、地域の歴史的、文化的資産である金沢城跡の文化遺産としての価値を育むとともに、事業への理解向上が図られ県民運動として盛り上げが図られた。その結果、北陸新幹線開業効果と相まって入園者数が238万人となり、石川県を代表する観光拠点となり新たな魅力向上に貢献していることを評価。

1. はじめに

金沢城公園は、平成8年3月に大学跡地を県が取得し、本県の歴史、伝統文化を象徴するシンボルとして、史実に沿った質の高い整備を進めている。

平成7年度の事業着手以来、菱櫓等の復元整備、公園の基盤整備等を行った10年間にわたる第一期整備に引き続き、平成18年度からは第二期整備に取り組み、平成22年には金沢城三御門のひとつ「河北門」の復元、「いもり堀」の水堀化が完成。平成27年3月には、城内で最も格式が高かったとされる「橋爪門（二の門・枳形）」の復元、石垣と一体となり高低差が20m以上にも及ぶ立体的な造形が特徴の「玉泉院丸庭園」を再現し、北陸新幹線の金沢開業に合わせて供用した。

2. 新幹線開業効果と相まって入園者が大幅増

新幹線開業後の平成27年度の入園者数は、前年度の1.7倍となる238万人となり、本県を代表する観光交流拠点の役割を果たしている。これは、新幹線開業効果はもとより、これまでの一貫した史実に沿った本物志向での取り組みが、兼六園と並ぶ加賀百万石文化のシンボルとして評価されたものと考えている。



金沢城公園全景

3. 伝統的建造技術による復元、技術の伝承

金沢城の城郭建造物の復元事業は、我が国の伝統的建造技術を後世に継承する実践の場との位置づけのもと、本県の誇る匠の技を県内外に発信することを基本に取り組んでおり、大工、板金、左官、石工、建具、造園などの職人それぞれが匠の技を発揮した。

金沢城の復元事業を契機に、業種の枠を超えた「石川の伝統的建造技術を伝える会」が組織されており、復元工事に実際に携わるとともに、普及啓発や後進の育成に取り組んでいる。



工事見学ステージ（橋爪門）

4. おわりに～県民参加による城づくり～

金沢城の復元整備は、文化遺産の価値を育むとともに、永く後世に引き継ぐべき新たな文化資産の創造を図るものであり、多くの県民・市民の参加のもと事業を進めていく必要があることから、計画段階、工事段階、そして完成など、それぞれのステージに相応しい、各種のイベント等を実施する「県民参加による城づくり」に取り組んだ。

工事の節目には、起工式、立柱式、上棟式、完成式などの式典を実施し、広報に努めるとともに、工事の実施状況が常時見学できる「見学ステージ」の設置や、工事の折々に伝統技術を体験できる見学会を実施した。

また、工事に使用する壁板や海鼠壁の平瓦に記念のメッセージを残す「寄進事業」を行っており、参加者が記したメッセージの内容や設置場所は、城内に設置された「寄進閲覧システム」やホームページ上で見るができるようになっている。

これらの取り組みには、県内を中心に、県外からも多くの方々に参加され、事業への理解向上が図られるとともに、広く県民運動として全県的な盛り上げが図られた。